

令和 5 年度 専門職大学院法務研究科（法科大学院）（D 日程）

## 小論文（未修者）

### 注意事項

以下をよく読んで、間違いないように受験してください。

1. 試験開始の合図があるまで、問題を開かないでください。
2. この問題冊子の 3~5 ページに問題が掲載されています。落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
3. 解答用紙は（その I）・（その II）の合計 2 枚です。解答用紙の追加は認めません。
4. 試験開始の合図があったら、すべての解答用紙に受験番号を記入してください。
5. 解答は必ず解答用紙の所定の場所に記入してください。
6. 解答用紙には、黒鉛筆（シャープペンシル可）の他、黒または青の万年筆・ボールペンを使用してもかまいません。
7. 文字ははっきり、ていねいに書いてください。解答の文字が読みにくい場合、点を与えないことがあります。
8. 試験中、使用していない解答用紙は机の上に裏返しにしてください。

[このページは空白です。]

## 小論文（配点 100 点）

中田兼介氏に対するインタビュー記事(2021年6月19日朝日新聞から抜粋)を読んで、下記の設問に答えなさい。

もともとはクモが専門の餅屋ではなかった。

アリがどうやって社会を作り、運営していくのかを 5 年間研究していた。働きアリは自分では卵を産まず、子孫を残すのを女王アリに任せる。こうした社会性昆虫の生活は人間にも通じるところがあって発見も多く、研究テーマとしては花形だ。博士論文はこれで書いた。

だが転機が訪れる。

「アリの研究が一段落ついで、『他の事もしたいな』と思っていたときにたまたま出会ったんです。網がとてもきれいで、すごく小さく、足が短いクモでした」クモと言えば、クモの巣（網）を思い浮かべる。だが網を張るクモは全体の半分ぐらい。網を張らずに狩りをするクモもいる。また子グモが糸を風船のように使って旅をすることもある。状況に応じて網の張り方を変えるクモもいる。

そんな賢さや複雑さに魅せられた。

「アリの一匹一匹は単純な生き物に見えます。それぞれが特定の仕事に特化しています。でもクモは一匹で全部をやります。えさを取るとき、巣を作るとき、卵を産むとき、とても繊細で複雑な行動をします。他者とどれくらい関わるかでこんなにやり方が違うんだなって」

クモは基本的に単独行動する。子育てをするクモや社会性を持つクモも少しいるが、卵からかえったときにはすでに親が死んでいることがほとんど。天涯孤独だという。

「動物の世界では、孤独はおかしなことではないのです。クモは 3 億年間、孤独な生活を続けているという感じです」

子育てをする哺乳類では、母子関係が発生する。子を守るメリットが大きいと雄も関与し、家族や群れ、そして社会が形成されていく。

実は、霊長類の社会には適正な規模があるという。英国の進化人類学者ロビン・ダンバーはいろいろな霊長類の脳を調べ、高度な知覚や思考などをつかさど

る大脳新皮質が占める割合を比べた。そして群れの規模が大きい程ほどその割合が大きいという関係を見いだした。群れが大きくなると、処理すべき情報が増えるため、こうした関係が成り立つらしい。この仮説に基づけば、人間の関わる社会の規模は100～150人程度となる。

ところが、交通やインターネットの発展もあり、現代人はそれ以上に人とのつながりを求めることができるようになった。「フォロワー」や「インフルエンサー」という言葉を聞かない日はない。一方、ネットでの中傷による不幸な事件も相次ぐ。

「小さな社会で培われた人と関わる方法をそのまま巨大なネットワーク空間で使うと問題が起きる、ということかもしれません。クモを見ている目からすると、人間の、他の人と関わりたい気持ちの強さに驚かされます」

一方で日本では未婚化・非婚化や、離婚率の上昇などで単身世帯が増え、孤独死の問題が深刻だ。コロナ禍による巣ごもりで孤独問題が深刻化しているとして担当相も新設された。

「人との関わりを求める人とそうでない人は、社会の中でほどよく交じってうまくいくものだと思いますが、社会全体が人との関わりを求める方向に行き過ぎると、私も含めて苦手な人がこぼれ落ちてしまう恐れがあります。自分たちの持っている特性や傾向を客観視する必要があって、人間とは全く正反対の孤独なクモの生き方は、そのための視点を外から与えてくれると思います」

もちろん中田さん自身が、クモのような孤独な生活をしているわけではない。自宅近くで田んぼを借りて米を作っているが、「今の生活は完全にアリ型ですよ。苗は買ってこないといけないし、脱穀機も借りないといけない。一人では何もできないです」と笑う。

かつて日本経済は働きバチが支えていた。積極的にえさを取りに行き、世界市場を席巻した。だがその時代は過ぎた。

「網を張ってじっと待つ。代謝を抑え、たまに来る貴重なチャンスを逃さない。こんなクモのやり方が、これからヒントになるかもしれません」

「クモたちの生きる理屈は私たちの理屈とは違います。生きている条件が違うから、そのやり方をそのまま採用できるわけではありません。ただ、オルタナティブ（選択肢）があることを知っているだけでも違うと思うのです」

## 設問 1

アリを研究することによって、何を積極的に学ぶことができるのか、自分の言葉でまとめなさい。

なお、解答は解答用紙（その I）に行うこと。

(配点 50 点)

## 設問 2

「オルタナティブ（選択肢）があることを知っているだけでも違う」とは、どういった意味を持つのか、蜘蛛の生き方から学ぶという観点から自分の言葉で説明しなさい。

なお、解答は解答用紙（その II）に行うこと。

(配点 50 点)

[このページは空白です。]